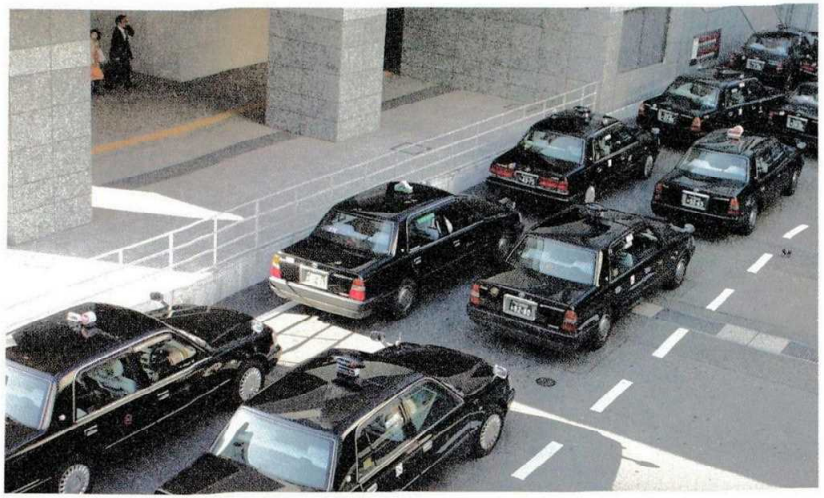
33

NAZOTOKI

大阪のタクシーはなぜ黒一色？



JR大阪駅前のタクシー待機場（大阪市）

JR上野駅前のタクシー待機場（東京都台東区）

大阪の飲食街を歩くと、動くカニやぎょろ目オヤジのいかつい顔など派手で巨大な看板がやたら目に付く。広告業界には「イメージの東京」「ストレートの大阪」という言葉があるそうだが、中小企業が多い大阪では、宣伝や看板に多くの費用をかけることができず、とにかく店名や商品名を覚えてもらうため、目立つことが最優先なのだ。東京の大企業のようにイメージ重視などと悠長に構えてはおられないのである。

ところが、大阪のタクシーは地味だ。ほとんどが黒塗りで、白、赤、黄などカラフルなタクシーが多い東京とは対照的である。何だか逆に思えるが、これには大阪商人特有の合理的な考え方が背景にある。東京都内には、約４万５０００台のタクシーが走っているが、タクシーとは別に約３５００台のハイヤーが登録されている。完全予約制のハイヤーは、冠婚葬祭や高級ホテルの送迎用、企業のＶＩＰの接待用などに利用され、車体は高級感のある黒塗りが基本である。もちろん、大阪もハイヤーの需要は多い。しかし、タクシーは約１万９０００台が登録されているが、ハイヤーの登録がほとんどない。大阪では、タクシーの屋根の表示灯や車体のラッピングが着脱式になっており、必要時にこれらを外せば、いつでもハイヤーに早変わりするのだ。タクシーが黒いのは、ハイヤーと兼用しているからである。

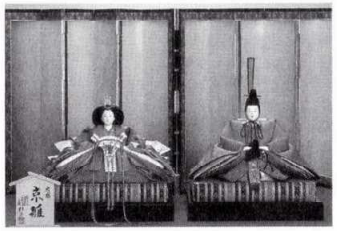
なお、東京のタクシーがカラフルなのは、タクシー会社が所属する営業組織ごとに車体を同一色にしているためだ。小田急や京王など電鉄系のタクシーは電車と同じ色になっている。タクシー内に忘れ物をしても、色を覚えていると発見しやすいという利点もあるらしい。

44

NAZOTOKI

ひな飾り

関東と関西、ひな祭りの男雛と女雛を並べる位置が逆なのはなぜ？



京都　©安藤人形店

関東　©久月

おひな様を飾るときに「アレッ？　お内裏様（男雛）は左右どっちだったかな？」と、人形の並べ方で迷う人が結構多いようだ。全国的には向かって左に男雛、右に女雛を飾ることが多い。しかし、「**京雛**」と呼ばれる関西のお雛様は、右側に男雛を飾る。各地に残る伝統的な雛飾りを見ても、男雛は右側に飾るのが古くからのしきたりである。本来、雛飾りは向かって右に男雛、左に女雛を並べる風習が一般的だったのが、今は逆になったのである。

これには、左を上位、右を下位とする「**左上右下**（さじょううげ）」と呼ばれる日本古来の伝統礼法が関係している。古代より日本では、天皇の住まいである御所は南向きに造営され（P.59参照）、太陽が昇る東側（南面すると左側）が上座とされた。律令制で左大臣が右大臣よりも上位とされたり、劇場で舞台の左側（客席から見ると右側）を「上手」、右側を「下手」と呼んだりするのも左上位の考え方に基づいている。雛飾りにおいても人形自体から正面を見て左側（向かって右）の上座に男雛、その隣に女雛を並べて飾るのが本来の伝統的な飾り方だったのである。

しかし、欧米では、英語で右を「正しい」という意味の「right」と言うように、日本とは逆に「**右上位**」が基本である。明治以降、日本は西洋文化を積極的に取り入れるようになったが、宮中の行事も西洋式の儀礼に倣うことが増え、大正天皇の即位の礼では、天皇は西洋式に右側に立たれ、その後、この並び方が皇室に定着した。そして、東京では皇室に敬意を表して、男雛を右（向かって左）、女雛を左（向かって右）に飾るようになり、それが次第に全国に広まった。つまり、日本古来の伝統的な飾り方をするのか、現代の皇室の儀礼を尊重した飾り方をするのかの違いであり、どちらの飾り方をしても何ら差し障りはないのだ。

関西と関東では、お雛様を飾る期間にも違いがある。立春（節分の翌日）を過ぎた頃から3月3日の桃の節句頃まで飾るのが今では一般的だが、関西には3月3日の直前から旧暦のひな祭りにあたる4月3日頃まで飾る習慣がある。また、ひな祭りが終われば早く片付けないと、婚期が遠のくと言われるが、これは迷信でそのような決まりがある訳ではない。湿気に弱い雛人形のためには、ひな祭り後の晴れてよく乾燥した日に片づけるのがよいそうだ。

「ひなあられ」にも違いがある。関東風のひなあられは、うるち米を爆発させ膨らませたポン菓子を砂糖で甘く味付けしたものだが、関西風のひなあられは、もち米を原料にした1cm角のあられを油で揚げ、醤油・えび・青のりなどで味付けしたものでカラフルだ。

46

NAZOTOKI

模造紙

B紙・大洋紙・大判紙・雁皮・鳥の子用紙etc 模造紙の呼び名が各地方で違うのはなぜ？

私「押しピンできちんと留めておいてね」

生徒「オシピン？　なにそれ？」とキョトン。

筆者は大阪出身、大学卒業後初めて大阪を離れ、愛知県の中学校に勤務するようになったが、これは新任時の生徒との会話である。押しピンは関西の言葉であり、画鋲と言わなければ通じないことを初めて知った。いわゆるカルチャーショックである。

私「授業で使いたいのですが、模造紙はどこにありますか？」

先輩教師「モゾーシ？　なにそれ？」

また、関西人だけの言葉を使ってしまったのか、それでは何と言えばいいのだろう。慌てて辞書で調べるが、模造紙は「模造紙」であって、他の言い方などは載っていなかった。その時に、初めて愛知県の教師や生徒は模造紙を「**B紙**」と呼ぶことを知った。

SNSにこのような書き込みを見つけた。

「学校で壁新聞に使ったあの白い大きな紙のことを、小学校から高校まで、私はずっと『**大洋紙**』と呼んでいましたが、それが新潟だけの呼び名だと初めて知りました。でも、どうして新潟だけ？　パソコンに『もぞうし』と打つと『模造紙』に変換されるのに、どうして『たいようし』は変換されないの？」

「B紙」と呼ぶのは、愛知県と岐阜県だけ、「大洋紙」と呼ぶのは新潟県だけなのだ。B紙の由来は、模造紙にはつやのあるA模造紙と、つや消しのB模造紙があり、略して「B紙」とか、紙のサイズがB1判（728×100㎜）に近いからだとか言われている。大洋紙は「大きな洋紙」の意味らしい。調べてみるとまだまだあった。山形県では「**大判紙**」、熊本県では「**広洋紙**」、鹿児島県では「**広幅洋紙**」と呼んでいる。これらは漢字の通り、「大洋紙」と同じような意味でそう呼ばれているのだろう。富山県では「**雁皮**」、愛媛県や沖縄県では「**鳥の子用紙**」と呼ぶそうだ。「雁皮」とはジンチョウゲ科の植物で、古くから和紙の原料として使われており、これを原料とした和紙を「雁皮紙」と言う。雁皮紙の一種で鳥の卵に似た色の紙が「鳥の子紙」である。ただ、どちらも元来は和紙の名であり、模造紙とは別物だ。

そもそも模造紙とは、いったい何を模造したのだろうか。東京の紙の博物館によると、明治の初めに大蔵省抄紙局が紙幣用の高品質の和紙を開発し、その紙が「局紙」と呼ばれ、パリ万博に出品されて高評価を得た。すると、オーストリアの製紙会社が、パルプを原料とし、局紙に似せた安価な紙を作り、これが「模造局紙」として日本へ輸出されるようになり、さらに、国内の製紙会社がこの紙を模造し、改良を加え、それが「**模造紙**」と呼ばれるようになった。その模造紙が、全国へ広まるうちに、何らかのきっかけでその地方固有の呼び名が生まれたようだ。

83

NAZOTOKI

東北
「秋田美人」と言うが、秋田県にはホントに美人が多いのだろうか？

秋田・京都・博多の女性を指して「日本三大美人」と呼ぶ。中でも「**秋田美人**」は、その筆頭とされ、秋田は日本一の美人の産地として知られている。

秋田にはなぜ美人が多いのか、様々な説があるが、概ね次のような理由が挙げられている。

その一、雪国で日照時間が短く、紫外線が少ないので、美白の肌になる。

その二、古来より北アジアと交わり、ロシア人の遺伝子を受け継いでいる。

その三、桃山時代末、水戸から移封された佐竹氏が旧領内の美女をみんな秋田に連れてきた。

まず、日照時間説だが、ある化粧品会社が、顧客のデータを元に発表した「ニッポン美肌県グランプリ２０１８」では、秋田県は全国第２位、１位は島根県、３位石川県、４位富山県という結果を見ると、雪国に美白の肌の女性が多いという説はうなずける。ただ、秋田県は今回の２位が過去の最高順位であり、決して秋田県が美肌ナンバーワンという訳ではない。

ロシア人遺伝子説の根拠とされるのは、秋田の人だけに他地域の人たちにはないヨーロッパ人と類似のＤＮＡが検出されるからだそうだ。ただ、ロシア人が太平洋岸まで進出したのは17世紀以降、今ひとつ現実性に欠ける。

美女引き連れ説は、話としてはおもしろいが同様の話は各地に見られる。それより、そも

そも秋田にはホントに美人が多いのか、それを確かめるのが先決だ。どのような女性を美人と言うのか、尺度は主観的なものだが、筆者は次の三つのデータに注目した。

まず、世界の美女たちが美しさを競う「ミスユニバース」だ。１９５２（昭和27）年から開催されているが、今までの日本代表や、入賞してその後モデルや女優として活躍している約１００人のについてその出身地を調べてみた。最多は東京の19人、東北からは青森、宮城、福島の出身者はいたが、予想に反し、秋田県の出身者は１人もいなかった。

ある美容関連の会社が発表した「女性体型メリハリ度ランキング」も興味深い。これはスリーサイズを目安にいわゆる「ボン・キュ・ボン」を女性の理想体型として指数化し、比較したものだが、秋田県は47都道府県中の44位。さらに、だめ押しになるようで秋田の女性には申し分ないが、文科省が実施した女子中高生の肥満度調査の全国１位が秋田県だった。

では、確証があるわけではないのに、なぜ秋田美人と呼ぶのだろうか。明治の終わり頃、秋田には銅などを採掘する多くの鉱山があり、歓楽街には芸者など多くの女性が働いていたが、その頃に秋田を訪れた文人たちが歓楽街の女性を指して「**秋田美人**」と呼んだことが、どうも始まりらしい。秋田が日本一の美女として名高い**小野小町**が生まれた土地ということもあって、以後、秋田美人という言葉が広く定着したようだ。秋田美人とは、ミスコンに出場するようなスリムな美人ではなく、純日本的な色白のポッチャリ型の女性を言うのだろう。

なお、秋田県の人口10万人当たりの美容院数は全国第１位、秋田の女性の美意識は高い。